令和６年度全国学力・学習状況調査　分析

１　成果及び課題

（１）【国語】

これまでに引き続き、全国平均を上回る正答率である。「書くこと」は一昨年度より課題であったが、問題形式の中の「記述式」や思考力・判断力・表現力の部分の「書くこと」の結果が、全国平均よりも高く、昨年度の結果よりも大きく上回る数値となった。これは、授業の中で自分の考えを文章で表現することや、スピーチの授業で原稿を考え書く活動を多く取り入れたことが、結果に繋がったと考えられる。

（２）【数学】

これまでに引き続き、全国平均を上回る正答率である。特に、「図形」「数と式」の正答率が高くなっており、昨年度よりも大きく上回っている。「記述式」の問題形式でも大きく全国平均を上回る結果となった。これは、「図形」や「数と式」に関して、授業の中で根拠を説明する時間を多くとり、家庭学習でも反復演習をする活動から、良い結果に繋がったと考えられる。

（３）【質問紙調査】

日頃から学級やグループでの話し合い活動が多く、互いに協力して課題解決に取り組んだり、自分の考えを深めたりしていることが、全国よりも肯定的な回答をしていることからも分かる。「自分と違う意見について考えるのが楽しい」と回答している生徒が全国より多く、授業の中で話し合う機会を多く持っている成果と考える。

一方、タブレットなどのＩＣＴ機器を活用した学習の効果について肯定的な回答が多いが、実際の授業では十分に活用できていないという結果となった。授業の中でタブレットなどのＩＣＴ機器を効果的に活用するために、引き続き教員の研修が必要である。

また、教科の学習に関して「将来、社会に出たときに役に立つか」「この教科の学習は大切か」という質問に対して、国語は９割以上、数学は８割以上が肯定的な回答だった。学習することは大切で、将来役に立つと考えている生徒が多いことがわかる。教科について「好きかどうか」の質問に対して、国語は約８割の生徒が肯定的な回答で、全国を大きく上回ったが、数学と理科は約６割程度で全国よりやや低い結果だった。数学は小学校からの積み重ねが大切なので、学年があがるにつれて理解が難しくなり、苦手意識を持つ生徒が増えるのが原因だと考える。授業の中で、苦手意識を持たないようにしていきたい。生徒の学習意欲が高いので、更なる学力向上に向けた授業改善が求められる。

人が困っているときに進んで助けていたり、人の役に立つ人間になりたいと考えたりしている生徒が９割以上で、全国を上回っていた。学校生活の中で、互いに助け合い前向きに生活している様子がうかがえる。これからも、生徒達の気持ちを大切にし、自己肯定感を高めるようにしていきたい。

２　改善目標及び具体的な手立て

（１）【改善目標】

①国語：「我が国の言語文化に関する事項」の問題の正答率を上げる。

②数学：「データの活用」の問題の正答率を上げる。「話すこと・聞くこと」の問題の正答率を上げる。

（２）【具体的な手立て】

①古典や古語の授業で、伝統的な文化や内容に触れて、興味を持たせていく。また基礎知識を徹底して習得させる。そのために、毎時間の授業記録や、単元毎に行っている振り返りシートを見て確認する。

②1 年次の学習している「データの活用」の内容の復習をする機会をつくる。また 2 年次の「箱ひげ図」での学習時に、1 年次の「データの活用」を繋げる。そのために、テストでの振り返りなどで、触れていく。